61.10.30付

怪しい「日韓トンネル」

統一協会の勢力拡大策

利権、軍事がらみの噂も

朝鮮時報

「日韓トンネル実現へ始動／佐賀で調査斜坑起工式」という大見出しで、二日付の世界日報は大きく報じた。一般各紙にはほとんど無視されたこの「日韓トンネル」とは何か。

一九八一年、「世界基督教統一神霊協会」（統一協会）の教祖、文鮮明が、国際文化財団（文が創設）主催の会議で「統一世界を形成し地上天国を実現する統一運動」の一環として「中国から韓国を通り日本に至るアジア大ハイウェイの建設」を提唱したのをうけて、九州と南朝鮮の間に「日韓トンネル」を掘ろうという計画が動きだした。

すぐに日本建設事業委員会が発足し、国際勝共連合事務総長の松浪立太郎が委員長となった。その後「国際ハイウェイ建設推進委員団」が正式発足、国際文化財団に援助される学術文化人組織「世界平和教授アカデミー」も参画、事業団の助言機関として「日韓トンネル研究会」が結成され、約千人が会員になっているという。

このなかには青函トンネル技術顧問の佐々保雄・北大名誉教授（鉱業学）ら、日本の学者、技術者、政治家、企業が入っている。佐賀県下や壱岐、対馬海域のボーリング地質調査や調査船による海底調査も進め、このたびの斜坑の起工となったわけである。これだけを見ると、実現にむけ着々と計画が進められていると錯覚しかねない。

しかし「実現不可能な夢物語」として相手にされていないというのが実状だ。

「文鮮明の力を誇示するジェスチャーと見ている。トンネルを掘るなんて国家的事業だし、とてもできっこない。地元人をおどろかすやり方でしょう」（評論家の荒井荒雄氏）。

公表されている計画では、佐賀県呼子町から壱岐、対馬、巨済島を経由して釜山まで全長約二百三十㌔（海底部約百六十八㌔）の海底トンネルを掘るというものだが、これは青函トンネルの約三倍、約三兆円という莫大な工費をどう調達するのか。それだけの価値はあるのか。

「あんまり本気に考えない方がいいのではないでしょうか。統一協会関係者や現実不可能とわかっていながら、文がやれといったからやっているようです。キリスト教の強い韓国では統一協会は異端者として評判はよくないですし、トンネル問題には学者も政界も関心をもっていませんね。信者たちには大きな政治的動員になっている。まあ、単なる宗教的行事の一つにすぎないのではないでしょうか」（ジャーナリストのKE）。

それにしても調査費だけでも数百億円といわれる費用はすべて統一協会側が出しているといわれる。「行事」にしてはたいへんな出費だ。「利権、軍事がらみ」と取りざたされてもいる。

神奈川朝信婦人友の会結成一周年記念会

神奈川朝鮮信用組合婦人友の会結成一周年記念ディナーショーが十四日、横浜郵便貯金会館で盛大に行なわれ約二百人が参加した。

現在会員数は千七百人で、この日参加者たちは金剛山歌劇団のショーや抽選会を楽しんだ。

「反米」弾圧強める

◇一万人から数百人に　南朝鮮治安当局は約三十の民主団体、約一万人の民主人士、学生、労働者らを「容共左翼」と決めつけすでに内偵を始めたといわれたが二十一日、捜査対象をいっきに四百人に絞り、マスコミを驚かせた。

理由は現行刑法上捜査対象にするのは、それ以上無理だということ。

だが本当の理由は、一万人という数字が与えたショックが予想以上に大きかったことにあるようだ。

実際、盲目的な反共主義者らはこの数字に恐れを隠さず、かえって事態をここまで"野放し"にしてきた全一派に非難の矢を向けており、とくに政部の突きあげが強まっているという。

多過ぎてもダメ、少な過ぎてもダメ。加えて能力上の問題。難かしい所だ。

◇新任駐南朝鮮大使リリーの発言　リリーは南朝鮮赴任に先立ち、南朝鮮特派員と会見し最近の貿易摩擦などに言及、「冷静に解決できる問題」などとのべた。

貿易問題について南朝鮮では民統連など在野四十団体が「米、日経済侵略阻止全国民運動連合」を結成しているが、リリーは南朝鮮人民のこうした動きを「感情的なもの」と批判した。

また、反米の動きについて「問題はその深刻性をどのように判断するかにかかっている」とのべ、就任後の取り締まり強化を示唆した。

◇地下鉄の負債一年で千二百億㌘増　ソウル地下鉄は昨年十月十八日の三、四号線全線開業から一年を迎えたが、この一年間で工事の負債が千二百億㌘も増え、合わせて二兆二百七十五億㌘に達した。

ソウル地下鉄公社の発表によれば、今後一九九一年まで毎年経支出の七〇％以上の元利金償還が続くという。地下鉄工事は86アジア大会、88五輪に合わせ急がれたが、今そのツケがまわってきたわけだ。